

防災対策調査特別委員会会議記録

- 1 期 日 令和元年12月20日（金）
午前9時24分 開会
午前11時00分 閉会
- 2 場 所 第1委員会室
- 3 出席委員 委員長 上田 倫久
副委員長 木谷 敏勝
委員 青山 憲司、芦田 竹彦、
伊藤 仁、井上 正治、
奥村 忠俊
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 主査 伊藤 八千代
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

防災対策調査特別委員会委員長 上田 倫久

防災対策調査特別委員会 次第

日 時：2019 年 12 月 20 日（金）9：30～

場 所：第 1 委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議・報告事項

（１） 本庁、振興局の雪害対策について（現状・課題等）

- 都市整備部 建設課
- 城崎振興局 地域振興課
- 竹野振興局 地域振興課
- 日高振興局 地域振興課
- 出石振興局 地域振興課
- 但東振興局 地域振興課

（２） 平成 30 年 7 月豪雨、台風 24 号の災害復旧工事進捗状況について

- コウノトリ共生部 農林水産課
- 都市整備部 建設課

4 そ の 他

5 閉 会

防災対策調査特別委員会名簿

【委 員】

職 名	氏 名
委 員 長	上 田 倫 久
副 委 員 長	木 谷 敏 勝
委 員	青 山 憲 司
委 員	芦 田 竹 彦
委 員	伊 藤 仁
委 員	井 上 正 治
委 員	奥 村 忠 俊

7名

【当 局】

職 名	氏 名	職 名	氏 名
防 災 監	宮田 索	防災課長	原田 泰三
コウノトリ共生部長		農林水産課長	石田 敦史
		農林水産課参事	川端 啓介
都市整備部参事	河本 行正	建設課参事	井垣 敬司
城崎振興局長	熊毛 好弘	地域振興課長	谷垣 一哉
竹野振興局長	瀧下 貴也	地域振興課長	福井 正幸
日高振興局長	小谷 士郎	地域振興課長	和藤 達也
出石振興局長	榮木 雅一	地域振興課参事	村上 忠夫
但東振興局長	羽尻 泰広	地域振興課長	大石 英明

16名

【議会事務局】

職 名	氏 名
主査	伊藤八千代

午前9時24分開会

○委員長（上田 倫久） おはようございます。6分ほど早いんですけども、ただいまより委員会を始めたいと思います。

委員長の挨拶ということで、この委員会のこと考えてみました。私自身も議員にならさせていただきまして一番最初の思いは、命を守るゾーンをつくっていくんだということで今までやってきております。この委員会は、特に市民にとって命を守る、命を救う大切な委員会でございます。気合いを入れて頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。楽しく元気に前向きに、この言葉が大変好きでございます。楽しく元気に前向きに取り組んでいきたいと思います。よろしくお願いします。

続きまして、きょうはまずコウノトリ共生部、水嶋部長より、本日の委員会を欠席する旨の申し出がありましたので、ご了承願います。先ほど出られるときに挨拶に来られました。

では、きょうはそれまで協議・報告事項でございますが、それでは、3番の協議・報告事項に入ります。

現在、常任委員会、特別委員会から会議録を市議会ホームページで公開しています。つきましては、委員の皆さん、当局の皆さんにおかれましては、次の2つの点にご留意願います。1つ目は、数字や年月日などについて、言い間違いのないように正確にお願いします。2つ目、個人情報や未確定事項などについて、不適切な発言がないように慎重を期してください。

本日は、特別委員会を開催するに当たり、正副委員長と協議しました結果、（1）本庁・振興局の雪害対策について、当局から説明を受け、質問があればお受けすることにします。次第書の順に進めます。一括して説明を受け、その後、質問を受けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず最初、当局の説明を求めます。

1 番目、都市整備部建設課、お願いいたします。どうぞ。

○建設課参事（井垣 敬司） 豊岡市除雪計画につい

て説明させていただきます。

A 4、横向きの資料のほうをごらんください。1枚めくっていただきまして、1 ページをごらんください。各地域の降雪状況です。豊岡地域の市街地は、圧雪対応がなかなか困難な状況にありますとともに、竹野地域南部の山間部、日高地域のスキー場周辺、但東地域については、降雪が多いのが特徴と言えるというふうに思っております。

済みません、さらにめくっていただいて、2 ページをごらんください。2019年度除雪計画の概要です。表の左から豊岡地域、城崎地域、竹野地域と、以下、順に除雪の体制について示させていただいておりますが、右から3列目の2019年度の合計というところを主に見てやっていただきたいと思います。

まずは、車道除雪でございます。車道除雪の車両の台数なんですが、直営7台、委託142台、合わせて149台を擁しておりまして、3段ほど下に下がっていただいて、車道除雪延長とございます。そちらの2019年度の欄を見ていただきますと、629.8キロメートルに対応しておるところです。

次に、歩道除雪でございます。また3段下がっていただいて、歩道除雪台数というふうなことで、こちらのほうも直営2台と委託28台の30台を擁しまして、その下の欄ですね、歩道除雪延長の合計が113.9キロメートルに対応しておるところです。ということで、先ほどの車道の延長629.8キロメートルに、歩道の延長113.9キロメートルを加えまして、総延長が743.7キロメートルの延長に対応しておるところです。

以下の欄につきましては、凍結防止剤の散布ですとか消雪装置の延長を示しておりますので、また後ほどご清覧いただきたいと思います。

次に、3 ページをごらんください。まず、左側に今年度、2019年度の除雪体制を掲げさせていただいております。都市整備部全体の体制で対応しておるところですが、各地域振興局からも2名ずつ情報収集や電話対応等に当たっていただいておりますと

ころです。

右側をごらんください。除雪期間ですが、これは12月1日から翌年の3月31日までとなっております。

除雪の出動基準です。各地点の午前3時の積雪深が10センチ以上で、今後さらに降雪が予想される場合に出動すると定めております。

次に、業者の皆さんの待機基準です。毎日21時に発表されます民間気象情報サービスの予測で、翌朝までに10センチ以上の降雪が見込まれるというふうに示された場合に、22時から翌朝4時まで待機するというふうにしております。

続きまして、4ページをごらんください。先ほど申しました待機指示のエリアでございます。図面にありますとおり、AからEまで5つに区分しております。ざっとですけども、Aエリアですね、こちらについては市街地と出石の北部、Bエリアについては日高東部と出石の西部、Cエリアについては城崎地域と竹野北部、Dエリアについては竹野南部と日高の西部、Eにつきましては出石の東部と但東地域というふうなことで、主に分けさせていただいております。降雪の特性により分けましたエリアごとの情報を、Eメールにて送信をさせていただいているところなんです。

ちょっとそれですけども、済みません、6ページを少し見てやっていただけますでしょうか。この左のほうに、これスマホの画面なんですけども、こういうふうな状況で皆さんにEメールを送信しているところでございます。

戻っていただいて、5ページをごらんください。市の主な取り組みというふうなことで、5点ございます。

まず、1つ目ですが、先ほど申ししております。民間気象情報サービスの提供を受け、市の地形、降雪状況等を踏まえたエリア分けを行っているところです。

2つ目です。エリアごとの降雪予測を委託業者に提供することにより、まずはオペレーターさんなどの作業員さんへの負担軽減を図ること。あわせまし

て、待機料の費用削減を図ることができるというふうに考えております。

3つ目です。市保有機械の計画的な更新や増強及びレンタル機械の借り上げなどにより、必要台数の確保を行っています。

4つ目です。国県道と市道の効率的な除雪が行えるように、県土木事務所と協議を行いまして、路線の交換など、より効率的な除雪に努めているところです。

5つ目です。区または地域コミュニティ組織への除雪機整備補助により、共助による除雪体制の強化を図っています。

次に、6ページをごらんください。再三出てますけれども、民間気象情報サービスの活用というふうなことで、先ほど申し上げました取り組みの1つ目と2つ目に当たろうかと思えます。従前については、気象庁発令の大雪警報及び大雪注意報が発令された際に待機というふうにしておりましたが、現在、株式会社ウェザーニューズとの委託によりまして、サービスを受けているところです。Eメールの送信は1日2回で、16時と21時となっております。21時の降雪予測で待機指示を行っておるところです。

先ほど見ていただきましたスマホの画面なんですけども、赤囲いをしております。Aということで、Aエリアですね。豊岡市街地、出石北部というふうなことで、その下、2行下がったところに、夜間総降雪量23.0センチメートルとございますが、この数字が10センチ以上の予報になった場合、待機の指示というふうなことになってございます。

7ページをごらんください。このサービスの活用の効果というふうなところでございます。2017年度の除雪です。警報と注意報が21回発令されております。右側を見ていただきまして、AからEエリアまで5つのエリアがあるわけなんですけども、こちらの平均が12.2回というふうなことになりまして、単純に言いますと、本来といいますか、21回待機となるべきところが12.2回に削減できたというふうなことで、約7,400万円の経費が

削減できたというふうに試算をしております。

続きまして、2018年度です。同じく警報と注意報が6回発令されておりますが、見ていただいたとおりで、実際の待機はエリア平均で3.4回というふうになってございまして、約2,100万円の経費が削減できたというふうに見込んでおります。

続きまして、8ページをごらんください。先ほど申し上げました取り組みの5つ目になろうかと思えます。除雪機緊急整備事業補助金です。交付の目的なんですけども、2行目から示しています。市道、生活道路等の除雪を行うために購入される除雪機について、その購入経費の一部を補助することにより、緊急的に整備を図り、もって地域の災害対応能力を高め、地域住民が安全に安心して暮らせるまちづくりに資することを目的とするとしています。

補助率ですが、除雪機1台につき補助対象経費の3分の2以内を補助するというふうにしておりまして、限度額がございます。150万円を限度とするというふうにしてございます。

ここ3年間の申請件数と支出した補助金でございます。2017年度が19件の申請をいただきまして、1,746万1,000円の補助金を支出しております。2018年度は14件の申請をいただき、873万6,000円支出しております。本年度につきましては、まだ年度途中でございますので、現在の数字というふうなことで、申請件数6件をいただき、347万3,000円の支出を行う見込みでございます。

9ページをごらんください。雪害対策費ということで、予算の関係でございます。左側の表をごらんください。上の表が雪害対策費とありまして、こちらが歳出になろうかと思えます。表の一番下の段、合計のところをごらんください。総合計ですけれども、2016年度につきましては5億6,800万円余り、2017年度につきましては4億9,000万円足らず、2018年度につきましては2億6,600万円足らずの経費を支出しております。

戻っていただきまして、2段目に除雪委託費という段があろうかと思えます。こちらが、業者の皆さ

んに除雪作業の委託をしたことに係る経費でございます。こちらについては、2016年度が4億6,000万円余り、2017年度が3億8,100万円余り、2018年度が1億2,400万円足らずというふうなことで、まことに大きな経費を支出させていただいております。下の表が主な財源というふうなことで、歳入の関係になろうかと思えます。また後ほどご清覧ください。

右側に、除雪出動日数等を記させていただいております。各地域の除雪出動日数ということで、こちらも3カ年分を豊岡、城崎、竹野、日高、出石、但東と、かくかく日数を示しております。

一番下の段です。警戒対策本部というふうなことで、2016年度と2017年度に警戒本部が設置されたというふうなところでございます。

最後です。10ページをごらんください。近年で最も除雪の経費を要したといえますか、大雪だったというような2016年度の状況について、少し触れさせていただきます。

2016年度につきましては、2度の豪雪が豊岡市を襲いました。先ほどもありましたように、豊岡市豪雪災害警戒本部が設置される状況にありました。

下の表をごらんください。2016年度の除雪の、左からです。延べの出動日数が40日となっております。これにかかわっていただきました業者の方が、こちらも延べなんですけど、984社でございます。先ほども申し上げました除雪作業の委託費が4億6,000万1,000円かかっております。

右の赤囲みのほうを見ていただきたいと思いますけれども、こちらも全て内数で圧雪処理及び拡幅処理というふうなことで、これについては、ダンプトラックを併用して作業をいたした分です。雪を路上から排除するための経費でございます。こちらが先ほどの内数で延べ30日で、作業にかかっていた業者さんが延べ206社というふうなことで、経費が9,433万3,000円かかっておりまして、通常の平年のような、平年並みの雪のシーズンには、ほとんどといえますか、余りかからないような経費

が、この年については9,400何がしというふうな大きな経費がかかったというふうなことが見てとっていただけるのかなというふうに思っています。このように、この年はフル回転で交通の確保に努めたところでございます。

説明は以上です。

○委員長（上田 倫久） ありがとうございます。

次に、城崎振興局地域振興課、お願いします。

○城崎振興局地域振興課長（谷垣 一哉） 済みません。委員の皆様は資料配付はございませんけれども、雪害対策につきまして、観光地としての対策についてでございますけれども、城崎は観光地でございますけれども、特に観光に特化した雪害の対策は行っていない状況でございます。

城崎振興局からは以上でございます。

○委員長（上田 倫久） 次に、竹野振興局地域振興課、お願いします。

○竹野振興局地域振興課長（福井 正幸） 竹野町独自での取り組みと申しますもろもろは特にございませんので、報告させていただくことは特にございません。以上です。

○委員長（上田 倫久） 次に、日高振興局地域振興課、どうぞ。

○日高振興局地域振興課長（和藤 達也） 雪害対策に直接関係はないんですが、雪害の予防、準備ということで1点、報告をさせていただきます。

日高地域は、冬期間の住民とスキーヤーの安全を目的といたしまして、冬山遭難、救急体制、火災予防、除雪体制などを確認し合う「冬山登山遭難防止並びに除雪等対策会議」を毎年12月初旬に開催しております。参集者は、豊岡南警察、消防日高分署、日高消防団、日高振興局、神鍋の3つのスキー場、それから神鍋観光開発協同組合、日高神鍋観光協会、主催は日高神鍋観光協会と神鍋観光開発協同組合の共催でございます。

また、いざ豪雪になった場合には、ほかの振興局同様、豊岡市地域防災計画に基づく日高地域豪雪対策警戒本部を設置して対応することとしております。

課題といたしましては、幹線道路の除雪が追いつかない場合があります。立ち往生が生じる場合があります。また、屋根の雪おろしなどを行いますので、それによりまして、集落内の生活道路の通行支障が生じるというようなことがあると考えております。以上です。

○委員長（上田 倫久） 次に、出石振興局地域振興課。

○出石振興局地域振興課参事（村上 忠夫） 出石につきましては、先ほど建設課からありました道路除雪計画以外に、いわゆる観光駐車場といいますか、市営の駐車場が3カ所、それから、まちづくり公社のほうで運営しています駐車場1カ所で、道路と同じような基準でもって除雪のほうを計画的に行っているという状況です。

課題につきましては、特に城下町エリア、伝建エリアの道がかなり狭いというようなことで、村部につきましては、田畑のほうへの除雪、排雪が可能なんですけれども、この城下町エリアの排雪場所の確保というのが今、課題となっております。

出石からは以上です。

○委員長（上田 倫久） 次に、但東振興局地域振興課、どうぞ。

○但東振興局地域振興課長（大石 英明） 但東振興局管内におきましても、独自の対策は講じておりませんので、報告させていただきます。以上です。

○委員長（上田 倫久） 説明は終わりました。

質問等はございませんか。

青山委員。

○委員（青山 憲司） では、ちょっと何点かお尋ねしたいと思います。まず、2ページで、車道除雪の明細をいただきましたが、委託で78社ということなんですけれども、これ、もし地域別にわかりましたら教えていただきたいと思います。

私から、2点目は、5ページなんですけれども、国県道の除雪については、路線の交換等により効率的な除雪に努めていきたいとまあ市道、国道、県道、交差してる部分があると思うんですけれども、そのあたりの具体的な内容があれば教えていただきたい。

それから、最後もう1点ですけども、9ページですけど、やっぱり気になるのは財源でして、ちょっとこの財源を見ると、雪害対策費が一番少ない平成30年度、前年度が除雪対応費が一番少ないにもかかわらず、財源が一番よくて、このあたりの理由と、それから、今回も1億8,000万円ほどですか、ちょっと財源をプラスしてということであったんですけども、国からの補助、交付金の、どういうんですか、基準点とか、市のほうで市道、豪雪になった場合は国からの補助が出るわけですけども、そのあたりの基準がわかれば、ちょっと教えていただきたいんですけども、以上。

○委員長（上田 倫久） よろしいですか。

3点ほど出てますけれども、よろしいですか。

井垣参事。

○建設課参事（井垣 敬司） 会社の数の……。

○委員（井上 正治） 78社ある。

○委員（青山 憲司） 委託、ちゃうちゃう、2019年度の合計のところで、142台、78社つてある。この78社が豊岡地域は何社。

○委員（伊藤 仁） 豊岡地域。

○委員（青山 憲司） ごめんなさい。了解、わかりました。

○委員（井上 正治） 入っとる、全部書いてある。

○委員（青山 憲司） あっ、書いてある。

○委員（井上 正治） 書いてある。

○委員（青山 憲司） 左側にちゃんと書いてある。

○委員長（上田 倫久） 井垣参事。

○建設課参事（井垣 敬司） 最初のご質問いただきました。私、説明の中で右から3列目をごらんくださいというふうなことで、わかりにくかったことかと思っています。まことに申しわけありません。（「いえいえ」と呼ぶ者あり）

それから、左側につきまして、左から順番に豊岡、城崎、竹野、日高、出石、但東というふうなことで、台数なり会社の数を示しておるところでございます。

続きまして、5ページの取り組みの4つ目に、路線の交換等というふうなことで、具体的にどうやと

いうふうなご質問だったかと思います。申しわけありません。こちらについては、ちょっと今わかりかねますので、後ほどご報告させていただきます。

続きまして、9ページの左の下の表、主な財源、歳入についてというふうなことで、国の交付金が2016年度、2017年度、豪雪だったけど、こういった額で、2018年度は平年並みだったにもかかわらず、額が大きくて、これはどういうことだというふうな内容だったかと思います。これにつきましては、前年から国のほうに要求をしておる中で、ちょっと推察の部分も入るやもしれませんが、2年連続で豪雨がいったというふうなことで……（発言する者あり）豪雪ということが一つと、2018年度につきましては、除雪機械を2台購入しております。その分、多額に当たったんじゃないかと思っています。

あと続きまして、臨時道路除雪事業費補助というふうなことで、2017年度に3,900万円が入っておりますが、これは委員おっしゃったとおりで、全国的に大きな被害というか、豪雪被害があった年に緊急的、臨時的に交付されるものだというふうに伺っております。

あと本年度、この12月の定例会で1億8,900万円の補正をお願いした中で、国の交付基準、国の補助金の交付基準ですかね、というご質問だったかと思います。実は、この1億8,900万円については、全て一般財源でお願いさせていただいておるところでありまして、国の交付金につきましては、先ほど申し上げましたように、前年度、早くから継続して何度か要望をしていただく中で、豊岡市の配分がこういう額になるというふうなことになるかと思います。

○委員長（上田 倫久） 青山議員。

○委員（青山 憲司） 済みません。名前を名乗らずに質問して済みません。

各地域割りのことにつきましては、申しわけなかったです、しっかり資料を見てなくて、済みません。各地域割りで、これだけの対応をしていただく事業者さんおられるんですけども、場所によっては、

例えばこういう公共施設の除雪だけではなくて、民間の、どういうんですかね、営業されてる、事業されてるところに行かれる事業者さんもおられると思うんですけども、そのあたりでこういった道路除雪に関して、優先的にその事業者さんが対応できるのかどうかっていうのは、ちょっと心配してる場所なんですけど、どちらかといえば、除雪単価の高いところを先に優先してということになるんじゃないかと思うんですけども、そのあたりの事業者さんと、どういうんですか、除雪を依頼されてる事業者さん、それから、今のこういった道路除雪に関しての優先順位っていうのがどういうふうに連携されてるのか、調整されてるのか、そのあたりをちょっと教えていただきたいと思います。

それから、今の財源の関係なんですけども、国から緊急的に補助が出る場合と出ない場合とあるというこの説明なんですけども、幾ら先ほどのように今の待機料の削減を一生懸命努められて、これは大変ありがたいことだと思うんですけども、国のほうでの補助、交付金の対象になるかならんかっていう判断は、もう全て国に依存するよりないということなのか、あるいは各地域において豪雪になった場合、国に対して補助を求めていく、そういうことを決められているのか、そのあたりはいかがでしょうか。

○委員長（上田 倫久） 都市整備部の井垣参事。

○建設課参事（井垣 敬司） 後の補助の対象の基準という意味合いで、それは緊急的に交付されることについての基準なのか、車道除雪なりの、どういいますか、どの部分について対象になるのかというか、意味合いでございますけど、どちらで理解させていただいたらよろしいでしょうか。

○委員長（上田 倫久） 青山議員。

○委員（青山 憲司） 豪雪になったときに、今の2017年度に緊急的に補助が出たというふうにあったんですけども、例えば2016年度は、それよりもたくさん降ったような記憶もあるんですが、このときにはその補助がなくて17年度に補助が出ると、そのあたりの判断ですね。これ市のほうか

ら、あるいは県のほうから特別、国のほうに補助の要請をされたのがためにこういう補助が出たのかね、そのあたりの判断基準っていうんですかね、国からの財政の支援っていうその判断はどういうふうにされるのか、されてるのか、その点について。

○委員長（上田 倫久） 井垣参事。

○建設課参事（井垣 敬司） 申しわけありません、明確にこうですということを今持ってございませんで、後ほどお知らせさせていただきたいと思います。

○委員長（上田 倫久） 井垣参事。

○建設課参事（井垣 敬司） 済みません、失礼しました。それと、今お世話になっている業者の皆様が車道や歩道除雪以外に、例えば大型商業施設の駐車場でありましたりの除雪等の競合をというふうなご質問だったかと思います。現在のところは、車両の確保を含めまして、何とか市道の除雪がお願いできている状況にあるというふうに考えております。午前4時にスタートいただきまして、おおむね午前8時までにはほぼほぼ作業を終えていただけているのではないかなというふうに思っております。以上です。

○委員（青山 憲司） はい、わかりました。

○委員長（上田 倫久） よろしいですか。

○委員（青山 憲司） よろしいです。

○委員長（上田 倫久） ほかにありませんか。
奥村委員。

○委員（奥村 忠俊） 朝早く業者の人、起きられまして本当に頑張っておるなというふうに思うんですけども、今でもやっぱり道路にはみ出てる状態の車っていうのは時々ありましてね、苦労されてるんですけども、トラブルも起こりやすいんですね。その他は毎年、市のほうから今上がりましたように、除雪がしにくくなるんで、そういったようなところには連絡はしてますけども、依然として、やっぱりあるところもあってね。そして、除雪が終わった後、車は出られたけども、そこだけ残ってるという状態もよく見るんです。だから、そういった点でどうでしょう。よく行政側からは連絡来て、雪が降

る可能性があるときは道路あけるのが優先ですから、お願いはしてると思うんですけども、最近はどうでしょう、そういうトラブルが発生してるというようなことはありますか。それから、一般的に住民の方々が、雪が予想される場合は、もうあらかじめ、やっぱり道路に置かないといえますか、はみ出るようなことがないというような、そういうふうになってるのかなという、どうかというところ辺ですけども、行政がつかんでおられたら、今のマナーというふうことですね、こういう状況だとかありましたら。

○委員長（上田 倫久） 都市整備部、河本参事。

○都市整備部参事（河本 行正） 一応、広報のほうは一生懸命させていただきまして、駐車しないとか、それから、道に雪を捨てないでください、屋根の雪を道におろさないでください、こういったことをお願いしてまして、そのことは大分周知をしておるんであるんですけども、やっぱりたまに。

○委員（奥村 忠俊） やっぱりまだある。

○都市整備部参事（河本 行正） ぽんとかう、急激に雪、予想もされてなくて、ぽかっとかう降って、朝、除雪に行くときにも一生懸命、雪かきされて車、出そうとされてる方なんかは見受けられます。あとでまた振幅時とかに、そういったところでできなかったところは、再度1周回った後にトライするとか、そういうことは指示して、交通の確保は行うようにしております。特段そのことでにっちもさっちもというような状況は、近年、大雪のときでも特にありませんでしたけど、そういった状況でございませう。

○委員長（上田 倫久） 奥村委員。

○委員（奥村 忠俊） それならよろしいんですけども、たまたま議員もしているということがありましてね、関係ないけども、電話があって、沿道もあけてくれてないとかいうことがあるんです。行くと、明らかにどうなってるかいうことを見たらわかるんですけども、そのときに、それ、あんたが置いときなるから、これ、もうこういふこと言いますけどね、なかなか理解してもらえんところもありまして、けんかする必要も何もないもんですから、お願いしま

すって帰るんですけども、ほんなら、今おっしゃったように、そういうものがなくなっているということであれば、これは大変ありがたいと思います。まあ、あればまた、しっかり要望していきたいなと思いますので、お願いしときたいと思います。

○委員長（上田 倫久） ほかにありませんか。

井上委員。

○委員（井上 正治） いよいよ暖冬といえども、日高は雪が降ってくるのではないかと期待をしているところでございますけど、除雪の方については、本当に早朝から大変ご苦労になってるなというふうな思いを持っております。

そこで、二、三点ちょっとお聞きしたいんですけども、まず、除雪に関して、近年は、去年は少なかったですけど、2年前、3年前ですか、には豪雪があったというようなこともございますんで、市民からの特に苦情の多さというのはどのようなものがあつたかということをやっとお尋ねしたいのと、その対応についてどのようにされたかということと、それから、もう1点は、除雪機緊急整備事業補助金が本年度をもってなくなるということになるわけですけども、実は、これを使っておられずに、次の買い換え時を、買い換え時がといたしますか、修理をするにしても、非常に高額になるということで、買い換えをしたいというふうなときの場合の対応を、今後の方向性としてどのようにお考えになっているのか。それから、これまでの補助金についての評価はどのようにされてるのか。ちょっとその辺をお聞きしたいと思います。

それから、もう1点は、共助による区内の市道の除雪を、区民がそれぞれ輪番制などによって行っているわけですけども、やはり非常に時間と手間と、それから機器類の維持管理費が非常に多く、多額にかかっているというのが現状です。これは、特に山間部の地区にお住まいの皆さんは随分感じておられると思うんですけども、それに対して、市はどのような認識をお持ちなのか、お伺いをしたいと思います。

以上、3点をお願いします。

○委員長（上田 倫久） 3点出てました。

都市整備部、井垣参事、よろしく。

○建設課参事（井垣 敬司） 苦情についてでございます。苦情については、済みません、補助金についてお答えさせていただきます。

緊急的な除雪機械の補助金については、8ページにお示ししておるところです。2017年度から3カ年というふうなことで、見ていただいたとおりで、申請件数と補助金額が減少しておるといふような状況にありまして、本年度も6件と350万円弱というふうな額でございまして、やはり制度がスタートしたときには興味を持っていただくというか、ご利用いただいて、だんだん一巡するという言い方が適切なのかわかりませんが、そういった意味では申請件数等が少なくなってきたところからも、3年間で一定の役割が果たせたのではないかと考えておりますし、以前にも、この2017年度の前年が2016年度、1年あけて、過去4年間にも同様な制度がございましたので、区民の皆様、コミュニティ組織の皆様に広くご利用いただいております。

それと、除雪を共助でやっていただいて、除雪機械等はこういった今の補助金等を使ってご購入いただいた後の維持管理ですとか燃料代ですとかというふうに、多額な経費がかかっているんだというお話をお伺いしました。こちらにつきましては、どういたしますか、事情のほうをまた個別にお聞かせいただきまして、例えばご無理をお願いしている路線が市道であるような場合は、今、皆さんに頑張っている分を除雪路線に加えていくような検討もできるのではないかなというふうに考えておるところです。

○委員（井上 正治） それから。

○副委員長（木谷 敏勝） もう1件ある。

○委員長（上田 倫久） もう3点ある。

○都市整備部参事（河本 行正） 済みません。苦情の多さということなんでございますけども、少ない雪のときは苦情はございません。ただ、爆発的に降

りまして圧雪状態になったときには、もう通れないという苦情もありますし、それから、早朝より自分の車を出すために一生懸命あけられて、その後に除雪車が通ったところに固まりが行くというような苦情も多くなってまいります。雪がふえての苦情というのは、その2点が非常に多くなってまいります。

ただ、件数とか、ちょっと統計とかは特にはとってはいませんが、そういった状況です。朝、そういう対応で職員二、三名配置するんですけども、やっぱり未明ぐらいからそういう電話があつとかかかってまいります。以上でございます。

○委員長（上田 倫久） 井上委員。

○委員（井上 正治） もう1点お尋ねしたいんですけども、除雪機緊急整備事業の補助金が本年度で終了すると、その後、恐らく経年劣化で機械をどうしても更新したいとかいうふうな形の中で、もし購入する場合の補助金制度というのか、例えば臨時的にそういう場合は何か特別措置を講じるとかというふうな方向性とか、そういうものについては、全く協議はされておられません。今後の方向性です。

○委員長（上田 倫久） 建設課、河本参事。

○都市整備部参事（河本 行正） 一応、今まで3カ年というのが、大雪を契機としまして、何か市としてできることの対策はないかということで、臨時的に3カ年に区切って整備ということで対応してまいりました。3カ年にいたしました理由としては、将来といいますか、その年にいきなり制度を設けても、区の予算とかが追いついていかんではないかということで、余裕を持って3カ年というようにことで実施しておりまして、だんだんと前回もそうですが、ずっと喉元を過ぎればといいますか、やっばりがつと降ったときには、もうすごいご要望があつて、おっとなるんですけども、こういった結果ですね、その辺は一応、今回も区切りとして見て、また状況を見ながらということで、検討のほうはしていきたいなというふうに思ってます。以上でございます。

○委員長（上田 倫久） 井上委員。

○委員（井上 正治） 要するに、10年以上使うと、やはりメンテであるとか、それから部分的に、例えば装甲のギアが壊れるとか、やっぱりいろんなところに不都合が発生してきて、どうしても多額の経費がかかる。いろんな部品がすぐあればいいわけですが、なかなか年数10年ぐらいたってしまうと、部品がもうないですよとか、いろいろとそういう、非常にぐあいが悪い部分というのは多々発生するというのが現実ですし、ほんで、やっぱりどうしても山間部のほうになると雪の量が多いんで、買う機械も大型化の機械の購入にしてもなるんで、買う購入金額はもう高額になるということがありますので、その辺も踏まえて、これで決してこの制度が終わるのではなしに、緊急的にそういう場合、やっぱり柔軟にできるような体制を常に持っておいていただいて、豪雪の降った明くる年であるとかというようなことについては、対応できるような体制はしていただきたいなということを思っております。これは、要望をしておきますし、それから、これは先ほど言いましたように、区内の市道の歩道です。除雪ですけども、特に山間部もやっぱりどことも、今、出石さんとか但東さんとか、やはり村中の路地は狭いということが非常に大きなネックになってると思うんで、結構、時間がかかる、そして雪を放る場所がない、同じ除雪機を使っても、雪を放る場所がないというのが一番大きなネックでして、それを、余りたくさん降ると持ち出しをしないと、もう捨てる所がないというような形で、非常に手間をかけながら、特に山間部の方たちは努力をされてるかな、苦労をされてるかなという思いを持っておりますので、やはり同じ市道をあけるのにも、手間のかかる部分というのは多々ありますので、その辺もしっかりとやっぱりご議論いただいて、何とか生活道路や、生活道路よりも市道がほとんどです。除雪路線というのは、だから、その辺を踏まえながら一度しっかりと研究していただいて、いい方向に考えていただいたらというふうに思っております。その辺はちょっと少し、もしお答えがございましたら、よろしくお願いします。

○委員長（上田 倫久） 都市整備部参事、河本参事。

○都市整備部参事（河本 行正） もう重々いつもそれは感じておまして、何とかということと、それから、予算的なものはざまで常に我々も前には目を向けて何とかというところで考えております。ただ、非常に路線というのが減らないもんですから、どうしてもこの経費という大きい問題がどこかこう前におりますので、創意工夫をしながら進めていきたいということの気持ちはございます。

○委員長（上田 倫久） 井上委員。

○委員（井上 正治） その辺を十分やっぱり実態を一度きちっと調査していただいて、やはり年間どの程度かかってくると一回、実態を調査いただいたら、やっぱりどの程度かかっているというのが認識していただけますので、しっかりと実態を見ていただいて、何とかいい方向に予算化をしていただいたらありがたいと思っておりますので、これはお願いをいたしたいと思います。

それから、ちょっと日高地域の課長にお願いしたいんですけども、私、いつも常々思うのが、どうしても観光地を抱えておりますんで、除雪がおくると、これは国道の部分なんで市道とは違うんですけども、どうしても渋滞が発生する。その部分というのがもう決まってるんですね、やっぱりその渋滞の箇所というのが。いつも私が常に言うんですけど、なかなか解決しないのが、そこで1カ所、車がスリップ、クラッシュしてしまうと、そこからずっとやっぱり渋滞が発生する。その連絡体制というのが何かいい構築方法ないのかなと、思いはするんです。特に今は県のほうで、いろんな日高という部分なんですけど、栃本から名色に上がる部分の、この約2キロ弱ぐらいかという距離がうねってて、あの部分ですぐ渋滞が発生するんです。そうすると、そこからいろんなおくれが生じて、いろんな状況が起きてくるということがあるんで、その連絡体制的なものというのが非常に何かないのかなとは思いますが、でも、これ、どこが見るのかってということが非常に難しい部分があると思うんですけど、一度、県のほうとも、県が管轄してますんで、県のほうとも1

回協議していただいて、その渋滞の発生の状況において、何か連絡システムというのがないだろうか。今、携帯っていうのがあるんですけど、なかなか都会の人というのは、雪が降って、雪国来る前でもノーマルで来る人が結構あるし、もうそういう事態になってしまってるんで、どうもあのエリアを何とか早く解消しないと、あの部分を、除雪体制をしっかりと対応していかないと、雪が降った場合の渋滞が解消できないと。そこで毎回、渋滞の発生の原因はそこなんです。その辺は認識していただいていうか、何か対応があるのかということを含めて、何かご回答があれば、よろしくお願いします。

○委員長（上田 倫久） 日高振興局。

○日高振興局地域振興課長（和藤 達也） 今のご指摘をいただきました件につきましては、認識はしております。あわせて、このことにつきましても、シーズンが始まりますので、また建設課との調整、さらに委託業者との連絡をとっていきますし、まず、その連絡方法ということにつきましては、きょう、私、除雪の担当が来ておりませんので、そのあたりと再確認もしながら、また議員さんの助言もいただきながら対応していきたいと思っております。

○委員（井上 正治） よろしく申し上げます。以上です。

○委員長（上田 倫久） ほかにありませんか。
はい。

○委員（芦田 竹彦） いいですか。お聞きしまして、体制をとられてるということは理解できますところになりますけどもということなんですが、よく聞きますのは、だらだら寒波、3日間がっとう雪が降るというときに、他の県でも渋滞をして、もう身動きがとれないという状況が起きるわけですね。そのときに、さっきの井上議員の、ちょっといつもと同じようになるかもわかりませんが、その豊岡市でもまかいきれなくなるような事態が発生した場合に、他市との、県もそうなんですけども、他市との協定みたいな、雪が南のほう、養父市とか朝来市はちょっと少なかったとしたら、そういう豊岡市に応援体制を要請するようなことにできないかなとい

う思いがあるわけです。他市も大変だということもあるかもわかりませんが、そういった要請というのは、今までのケースの中であったんでしょうか。ちょっとそこをお伺いしたい。

○委員長（上田 倫久） はい、河本部長。

○都市整備部参事（河本 行正） 広域的な連携ということで、一度、福井のああいいう8号線の渋滞といますか、もう閉じ込められたというふうな状況を見ながら思ったんですけども、まず、応援というのが、機械がないと除雪等の応援ができませんので、そういった場合を考えますと、先ほど井垣参事のほうから説明しましたが、豊岡市のほう、いろんな市域が大変広うございます。雪の降り方も一定ではございませんので、まずはこちらのほうの、市内部のほうで融通をつけながらということで対応できるのではないかとこのように考えております。実際、ことしの雪は平地部がそんなになかったんですけども、去年、沿岸部でかなり降りまして、おっしゃいますように、だらだらといいますか、非常に低温の状況が続きまして、雪が解けないと。ふだん、沿岸部でしたら海水温の影響で、かなり早く降っても解けるんですけども、解けないというような状況の中で大雪になりました。そのときも市内のほうからの応援とか、こちらが直営部隊のほうを出したりとかして対応はいたしまして、現在のところは広域的なそういう市外の連携ではなくて、市内のほうで業者さんも含めて対応をやっているところと、異常時になったらそういう体制をとるということにしております。以上です。

○委員（芦田 竹彦） わかりました。よろしいですか。はい。理解できました。市内で対応していったら、それ以上超えたら、また要請することもあるかもわからへんということで理解したらええですかね。

それが一つと、豪雪になった場合によく聞くのは、民家です。道路のほうの体制はよくわかりましたけども、家屋で高齢世帯のところがよく聞くのは、雪おろしである事故が起きるとか腰の骨を折ったとか、そういった豪雪によるトラブルがあるということなんですけども、家屋体制なんかは、行政は自分のお

うちのことですからということなんですが、よく降った場合に、屋根の雪おろしの体制を、ボランティアで来られる方があった場合に、これは地域からもそうなんですけども、市はどういう窓口なんかを設置して、どこどこにということで、各振興局のほうからそういう意見があるやもわかりませんが、そういった体制というのは、連絡体制がちょっと聞いときたいなと思って、ちょっと質問させていただきました。言ってる意味わかりますかね。

○委員長（上田 倫久） 都市整備部、河本参事。

○都市整備部参事（河本 行正） 先ほどありました市内の除雪のその上をいった体制をいったときということで、理解してよろしいでしょうか。

○委員（芦田 竹彦） はい。

○都市整備部参事（河本 行正） その段階になりますと、ちょっと取り決めとかは特にはしておりませんが、自衛隊とかそういった要請にもなってくるんじゃないかなというふうに思います。

それから、あと広域的といいますか、国や県にもご支援を受ければ、まあまあ、そちらのほうに近いところが先かなというふうに思います。

私からは以上です。

○委員長（上田 倫久） 原田課長。

○防災課長（原田 泰三） 私のほうからは、家屋の雪おろし、特に高齢者の方につきましては、高年介護課のほうが対応しております。平成30年2月の防災行政無線放送でも、豪雪時における要援護者世帯の雪おろし援助制度というようなことのPRを1日1回とかペースでさせていただいております。自力で屋根の雪おろしが困難な高齢者の方だったり、障害者の方だったり、母子の世帯のうち、市民税が非課税の世帯の方が、建設業者さんなんかに依頼をして雪おろしをされた場合に、その費用の2分の1を、1回3万円を限度として助成するというようなことですが、今ご説明した内容は昨年2月の時点の内容ですので、今年度の条件がどうなっているかというのは、手元にないので、わからないんですが、こういったようなものを防災行政無線とかメールなんかを使って周知をさせていただいており

ます。実績等はちょっとわかってはおりません。（発言する者あり）

それから、今年につきましても、今言いましたような対象があり、条件がございまして、そういった方々に対して雪おろしの費用ということで、1回の雪おろし費用の2分の1、3万円を限度にということで、年度内1世帯当たり3回までということで、一応、広報にも載せていますし、チラシも配布させていただいているというのが、高年介護課のほうの取り組みでございます。以上でございます。

○委員長（上田 倫久） ありがとうございます。どうぞ、伊藤委員。

○委員（伊藤 仁） まず、除雪。（発言する者あり）

○委員長（上田 倫久） はい。どうぞ。

○委員（伊藤 仁） よろしいですか。除雪待機についてお尋ねをしたいんですけども、ウェザーニューズですか、との契約で大きな金額が出ております。ほんで、大きな効果が出てると思うんですけども、これの待機料の削減のケース、待機料の計算方法、なぜこういう7、400万円になったのかね、お聞きしたいのと、ウェザーニューズですか、との契約で、これだけの効果が出てるんですけど、ウェザーニューズとはどういう契約になっているのかということを教えてください。

それと、あと補助金で除雪機を購入されているわけですけども、トータルしますと49件、49機というのかわかりませんが、どのようなタイプ、飛ばすやつなのか、ホイールローダーなのか、そのあたりの状況を教えてください。

○事務局主査（伊藤八千代） 39件だと思います。

○委員（伊藤 仁） 39件か、ごめんなさい、39機。

○委員長（上田 倫久） 建設課、井垣参事。

○建設課参事（井垣 敬司） 待機料の積算なんですけども、除雪の機械を運転していただく方と、通常は助手の方。

○委員（伊藤 仁） 2人で。

○建設課参事（井垣 敬司） はい、を想定しており

ます。ただ、業者さんの人員の都合で、助手の方が確保できないというようなこともございますので、必ず助手の方をということではないというふうなことがまず一つで、その運転手の方と助手の方があの、先ほど申しあげました10時から4時までの、どういいますか、賃金といいますか、日当といいますか、その分を1回当たり計上しておるといふうなことでございます。

待機料の削減額というふうなことで大きな額を申しあげたんですけれども、どういいますか、全市で一斉に全ての業者の方に待機いただくと、1回当たり約900万円の経費がかかります。先ほどはエリア平均で12.2回とか3.4回とかいうふうなことで。

○委員（伊藤 仁） 待機の平均で。

○建設課参事（井垣 敬司） はい。ただ、偏りといえますか、どういったらいいんでしょう、日高の西部ですとか、但東地域とかがこう数が多くなってきました。逆に、この豊岡の市街地なんか、一度待機がかかると、ざっとですけれども、1回で360万円程度になるんですが、この豊岡の市街地については、待機になる頻度も少ないというふうなことで、単純には言えないんですけれども、どういいますか、例えば2017年度でしたら、21回からエリア平均の12.2回を引き算して、それに900万円を掛けるというふうな、あくまでも暫定というかなんで、それをしましても、きっちり7,400万円という額には、申しわけありません、ならないんですが、エリアごとの回数と、この間、削減できたよねっていう地域ごとの回数を掛け合わせて、このような額を導き出させていただいたというふうなところです。

あと、除雪機のタイプのお話があったかと思えます。ウェザーニューズ社との契約なんですけれども、先ほど申しあげました12月1日から翌年の3月31日までですね。この間に、これも先ほど申しあげました、午後4時と午後9時にメールを送信していただくというふうな内容の契約を締結させていただいておりまして、かかります経費が、9ページをごらんいただきたいんですけれども、上から3段目

になるんでしょうか、除雪対策支援業務ということで520万円弱。済みません、9ページの左上の表をごらんいただけますか。

○都市整備部参事（河本 行正） 上から3段目。

○委員（芦田 竹彦） 518万円か。

○委員（青山 憲司） 除雪対策支援業務。

○委員（伊藤 仁） これ2段目か、2段目か。

○委員（奥村 忠俊） 支援業務。

○建設課参事（井垣 敬司） そうです。

○委員（伊藤 仁） これがそういうことですか。

○建設課参事（井垣 敬司） という内容でございます。除雪の機械につきましては、どういいますか、ほとんどがハンドガイド式のロータリー式、雪を吐き出させるタイプでございます。

○委員（伊藤 仁） まあよろしいです。

○委員長（上田 倫久） 本庁・振興局の雪害対策につきましましては、この程度にしておきたいと思えます。

次に、平成30年7月豪雨、台風24号の災害復旧工事進捗状況についてを議題とします。

次第書の順に進めます。一括して説明を受け、その後、質問を受けたいと思えます。

当局の説明を求めます。

コウノトリ共生部農林水産課。

○農林水産課参事（川端 啓介） 資料はA4、1枚で、右肩に防災対策調査特別委員会資料で、コウノトリ共生部農林水産課と打っているものをご覧ください。平成30年7月豪雨、台風24号の農林水産課所管の災害復旧工事の進捗状況について報告をさせていただきます。資料に沿って説明をさせていただきます。

まず、農地災害復旧事業につきましては、7月豪雨、台風24号につきまして、それぞれ16カ所、2カ所とあり、合計18カ所ありましたが、全て完成をしております。

続きまして、その下の段、農業用施設災害復旧事業、水路とか道路とか、井堰とかというような被害についてです。こちらにつきましては、7月豪雨が箇所としては14カ所ございましたが、2カ所、工事中でございます。台風24号の2カ所については

完成をしております。よって、16カ所中14カ所完成して、2カ所が工事中ということになっております。

続きまして、その下の段、林道施設災害復旧事業につきましては2カ所ございましたが、2カ所とも完成しております。

その下の段、県単独災害復旧補助治山事業につきまして5カ所、被害を受けておりましたが、こちらでも5カ所完成をしております。

なお、ただいまの報告は、12月10日現在の復旧状況でございます。

加えて2件、農業用施設災害復旧事業が現在工事中という報告をいたしました。こちらは、河川の関連する工事箇所でございます。井堰の復旧でありますとか河川内の堤外水路の復旧ということで、河川の出水期が終えたこの11月から着工し始めて現在工事中ということです。こちらにつきましても、年度内で完成する予定で現在進捗中でございます。

農林水産課からは以上でございます。

○委員長（上田 倫久） わかりました。

次に、都市整備部建設課、井垣参事。

○建設課参事（井垣 敬司） 建設課からお配りしました、右肩に建設課、令和元年12月20日というふうに記しております資料をごらんいただきたいと思います。平成30年7月豪雨、台風24号の災害復旧工事の進捗状況についてでございます。

被災しました河川や道路など公共土木施設のうち、国庫負担の対象となります99カ所につきましては、12月10日現在で62カ所が完成しております。進捗率に直しますと63%ということでございます。残りの37カ所につきましても、一日も早い完成を目指しているところです。

その下でございます。緊急小規模急傾斜地崩壊対策事業です。民家の裏山が崩れました小規模急傾斜の土砂災害4カ所の復旧工事については、全て発注を終えておまして、1カ所が完成しておるところです。残りの3カ所につきましても、年度内に完成をいただく予定でございます。以上です。

○委員長（上田 倫久） 説明は終わりました。

質問等はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 倫久） それでは、ないようですので、平成30年7月豪雨、台風24号の災害復旧工事進捗状況については、この程度でとどめておきたいと思います。

以上で当局側に説明を願う協議・報告事項は終了しました。

この際、当局の皆さんから特に発言はありませんか。なし。よろしいか。

以上で当局職員の方は退席していただいて結構です。お疲れさまでした。

暫時休憩いたします。休憩は5分、45分まで。

午前10時40分休憩

午前10時48分再開

○委員長（上田 倫久） なら、おそろいですので、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に、その他ですが、委員の皆さん、きょうはこの管外研修の日にちと管外研修の場所について、ちょっと事務局のほうからお願いします。

○事務局主査（伊藤八千代） 失礼します。毎年7月に管外研修のほうを特別委員会は開催しております。まだ先の話なんですけども、7月、豊岡病院議会のほうも入ってきますので、早目にちょっと日程だけでも本日決めたいなと思ひまして、お手元のほうに2020年7月のカレンダーのほうをお配りしておると思いますので、ちょっと確認していただけますでしょうか。

こちらのほうの希望としましては、7月の第2週、7、8、9、火、水、木、もしくは翌週の14、15、16あたりで予定をしてみたらどうかというふうに考えております。

○委員（伊藤 仁） ちなみに今、豊岡病院はどうなっている？

○事務局主査（伊藤八千代） 豊岡病院のほうは、まだちょっと日程が決まっていないということです。……。

○委員（伊藤 仁） 決まっていない。ああ、そう。

○事務局主査（伊藤八千代） ほかの特別委員会の絡みもあったり、バスで行くということが前提ですの
で、早目にちょっとバスを押さえないなというふう
に思っておりますので。

○委員長（上田 倫久） 7、8、9。

○委員（伊藤 仁） 今のところ、それは7月全然
予定入ってませんので、お任せしますけど、委員長。

○副委員長（木谷 敏勝） 委員長。

○委員長（上田 倫久） どうぞ、伊藤委員。

○委員（伊藤 仁） 日程調整につきましては、委
員長、副委員長のほうで、私はあいてますので、お
任せします。

○委員長（上田 倫久） 副委員長は。

○委員長（上田 倫久） はい、副委員長。

○副委員長（木谷 敏勝） そんなら、第1希望って
なってるんで、そのほうがええわけでしょう、事
務局としては、その7、8、9で。

○委員長（上田 倫久） 7、8、9。

○副委員長（木谷 敏勝） 7、8、9のうちの2日、
それはちょっとこっちに任せてもらわな。

○委員（井上 正治） はい。お任せしますよ。

○副委員長（木谷 敏勝） だから、7、8、9の第
1希望で日程は押さえていただくということ
で、そのうちの2日ということでもよろしく願いし
ます。

○委員長（上田 倫久） なら、決まりました。
あとは。

○事務局主査（伊藤八千代） そしたら、日程のほう
は第1希望の7、8、9の3日間ということで、
あと、行き先とかは先方の受け入れの関係もありま
すので、それであわせて調整をさせていただきたい
と思います。それで、きょう急にどこに行くという
のはなかなか決められないと思いますので、本日、
参考までに、過去4年間、どこに行ったというよう
な実績をお配りしておりますので、ちょっと見てい
ただきまして、次の会議までには行き先というの
を決めたいなと思いますので、ご意見がありました
らよろしくお願いします。

○委員長（上田 倫久） どこか行きたいところが。

○副委員長（木谷 敏勝） どっか行きたいところは。
それから、何か研究したいところは。

○委員長（上田 倫久） 去年は京都と広島行ってま
す。その前の年は福井県勝山市とあわら、その前の
年は滋賀県の大津（「和歌山行ってるんだ」と呼ぶ
者あり）京都府南丹市。

○委員（伊藤 仁） 和歌山も酷かったよね。

○委員長（上田 倫久） その前が徳島県三好市と県
土なんですが、行きたいところはありませんか。

○委員（青山 憲司） その時期だと落ち着いている
かもしれませんが、青山です。

○委員長（上田 倫久） 青山委員。

○委員（青山 憲司） ことしの台風で大分大きな被
害を受けられた長野あたりで、河川の状態がどうだ
ったのか。（発言する者あり）

ちょっと被災地に見に行くっていうのは、なかな
か。

○副委員長（木谷 敏勝） キロ数が超えちゃう、4
00キロ。

○委員（青山 憲司） 気を使うとは思いますが。

○委員長（上田 倫久） 距離。

○副委員長（木谷 敏勝） 距離が400キロ超えち
ゃうんだよな。

○委員（青山 憲司） 距離数は関係ありません。

○副委員長（木谷 敏勝） 市のバスが使えない。

○委員（伊藤 仁） 長野市。

○委員長（上田 倫久） 前は大津にいった。
津波。

○委員（奥村 忠俊） これ、去年はあれですか、広
島に行かれてますけども、まあ何年前に広島ね。

○事務局主査（伊藤八千代） そうです。去年は、浅
田委員長の強い要望で、本当は真備町に行きたかつ
たんですけども……。

○委員（井上 正治） 真備町がまだ。

○事務局主査（伊藤八千代） ちょっと余り災害の直
後だったので、行くときに受け入れが難しいかなと
いうことで、平成26年のときの広島のほうに行か
せていただきました。（発言する者あり）はい。

○委員長（上田 倫久） ちょっと暫時休憩とって、

ちょっと意見を聞いて。

午前10時53分休憩

午前10時58分再開

○委員長（上田 倫久） なら、委員会を再開いたします。

今、たくさん出てましたけれども、あえて何かありましたら。

どうぞ。

○委員（伊藤 仁） 行き先につきましても、委員長、副委員長に汗をかいていただいて、提案していただけたらなというふうに思っております。以上です。

○委員長（上田 倫久） わかりました。

よろしいか。

○委員（奥村 忠俊） 強く委員長に一任しますので、よろしくお願いします。

○委員長（上田 倫久） そういうご意見が出てます。正副委員長のほうで意見を、場所等を決めるということでございますので、委員長、副委員長のほうで決めさせていただいてよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 倫久） では、またお諮りすると思えますけれども、日にちは決まりました。場所につきましても、今、案が出てますので、それを参考にしまして場所を決めていきたいと思っております。ほかに何かありましたらお願いします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 倫久） では、防災対策調査特別委員会を、これにて閉会いたします。ご苦労さまでした。

午前11時00分閉会
